

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：アスクゆめみらい保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：平尾 雅浩	定員（利用人数）：90名（90名）
所在地：〒223-0052 横浜市港北区綱島東4-1-5	
TEL：045-540-3030	ホームページ： https://www.nihonhoiku.co.jp/blog/yumemirai/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2009年10月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 日本保育サービス	
職員数	常勤職員： 20名 非常勤職員 9名
専門職員	保育士：園長 1名 看護師 1名
	保育士：主任 1名 栄養士 1名
	保育士 17名 調理員 6名
施設・設備の概要	乳児室（0～2歳児室） 3室 職員休憩室（更衣室） 1室
	幼児室（3～5歳児室） 3室 地域子育て支援室 1室
	沐浴室 2室 （設備等）
	調理室 1室 建物 鉄筋コンクリート造り4階建
	トイレ 2室 延床面積 676.63㎡
	事務室 1室 園庭 286.2 ㎡

③ 理念・基本方針

【保育理念】

「未来（あす）を生きる力を培う」

自分らしく、生きる道を歩み、どんな時代にも対応できる資質と能力を培います。

【保育方針】

- ・自ら伸びようとする力を支えます。
- ・五感を使って感性を豊かにします。
- ・後伸びする力を育みます。

一人ひとりに心をかけ、愛情を注ぎ、成長に合わせたきめ細かな保育を行うことで、変化の激しいこれからの社会を生き抜くための、「生涯にわたる生きる力の基礎」を育みます。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

アスクゆめみらい保育園は、東急東横線綱島駅から歩いて15分のところに位置し、住宅や大規模商業施設のほか、公園も点在する地域にあります。定員90名のところ現在90名が在籍しています。3階建てビルの2階、3階を占め、広い屋上園庭もあります。天気の良い日は園庭や公園での戸外遊びを楽しんでいます。

株式会社日本保育サービスが、2009年10月に他の経営主体から経営を引継いで、14年目の保育園です。

【園の特徴】

園目標は「あいさつをしましょう」「お友達をたいせつにしましょう」「げんきにあそびましょう」としています。

「生きる力」「伸びる力」を育むことを目的に、保育プログラムとして「英語」「体操」「リトミック」「もじ・かずランド」「地域交流」「保育・学童連携」を実施しています。特に、食育、英語、運動に力を入れて取り組んでいます。

園内研修では、人権週間に運営法人作成の「人権に関するチェックリスト&解説書」を用いた研修をし、安全対策として、遊具や行き帰りの危険について記載した公園ルートマップ・公園安全マップを作成しています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年8月1日（契約日）～ 2023年3月24日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	6回（2017年度）

⑥ 総評

◇特長や今後期待される点

1. 子どもたちが自発的・意欲的な活動ができる環境作り

園では、子ども相互の関わりを大切にするとともに、一人でいることも尊重しながら、子どもたちが自発的・意欲的な活動ができる環境を整えています。各保育室には、可動式の棚を置き、各コーナーを設置し、折り紙や廃材も用意して、子どもが好きな遊びを自由にできるようにしています。1歳児室の段ボールで手作りしたハンバーガー屋さん、屋根は子どもたちが絵を描きました。カウンター脇には飲料のコーナーがあり、裏側は台所セットと接続して作業ができるようになっています。ほかに絵本、車のレースマット、制作、手作りすべり台のコーナーのほか、1人で好きな遊びができるコーナーもあります。

2. 食育体験の充実

園の重点活動として食育をあげ、年間食育計画のほか、「日本の伝統的な食文化や風習を体験する」として、年間の食農計画を作成しています。シェア畑では大根、パプリカ等、プランターではオクラやカブ、バケツでは稲等の栽培をする食農体験に力を入れています。栽培した野菜は、食材として食事に取り入れています。また、出汁を味わう出前授業、魚の解体ショー、梅干しやみそ作り、おにぎりともみそ汁の調理や餅つき体験を企画・実施し、子どもの食への関心を深める工夫をしています。

3. 保護者同士の交流へのサポート

就学に向けての不安を軽減するために、5歳児クラスの懇談会で、小学生のきょうだい児を持つ保護者に、小学校の様子や様々な学童保育の情報を伝えてもらいました。学童保育の情報を玄関に掲示し、各学童保育についてのコメントを保護者に直接記入してもらっています。また、5歳児が学童保育に見学に行き、就学後の様子を見ることができました。

子どもがつぶやいたこと、子育ての楽しさや困ったことを保護者同士や職員で共有し合うためのツールとして、玄関に「つぶや木」と書かれたツリー状の絵を貼っています。保護者や職員が、「『緑茶』を『6茶』だと思い込んでいたようです！」など、その場で思ったこと、ほっこりする子どものつぶやき等を記入し貼り付けていま

す。園では、書かれた内容を読んで、保育に生かすこともあります。

4. 事業計画の作成・実行と保護者への周知

園の中期計画と「施設の自己評価」で明らかになった課題を反映した、単年度の事業計画を作成しています。

単年度の事業計画は、継続的な保育の実施（英語・食育・運動）、子育て支援（地域と保護者）、安定した園運営と保育の質の向上（環境、安全・人権意識の共有）を取り上げています。具体的な実施計画からなり、担当者、数値目標を設定し、上期・下期別の実施状況の評価が行える内容になっています。

園内研修で検討した保育環境の見直し、公園ルートマップ・公園安全マップの作成、伝統的な食文化体験等を実施し、事業計画の実行へと園全体で積極的に取り組んでいます。

保護者懇談会で、理念・保育方針に加え、事業計画の具体的な計画や実施状況を説明しています。今回の第三者評価で実施した利用者家族アンケートでも、理念・保育方針についての質問で90%、事業計画についての質問で76%の保護者が「知っている」「まあ知っている」と回答しています。

5. 地域への情報発信の工夫とボランティアや体験学習の受け入れを

地域子育て支援として、絵本の貸し出し、園庭開放、交流保育、育児講座、育児相談等を企画していますが、参加者は多くありません。自治会、民生委員、子育て支援拠点等と連携して幅広い活動をすることで、園の存在を知ってもらうことが大切です。地域に対して情報発信の方法を工夫するなど、積極的に取り組むことが期待されます。また、地域社会と保育所をつなぐ柱として、ボランティアや小中学校の体験学習を受け入れ、子どもの生活の広がりにも寄与することが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度、第三者評価を受審し、改めて園としての課題や職員間での課題などに気付くことができました。また、園内のみでの振り返りではなかなか気づくことの出来なかった課題も評価結果を通じて知ることが出来ました。

お子様が笑顔に囲まれて、楽しく安心して過ごす事ができるように日々取り組んでおりますが、今回の評価を受けてさらに改善していきたいと思えます。

また、保護者の皆様方や地域の皆様からも愛されるような保育園作りをしていきたいと思っております。

今後の計画としては、地域との関りにより力を注いでいきます。地域の子育て拠点としての役割をより強めていきます。

最後に第三者評価受審に際し、お忙しい中、アンケートにご協力いただきました保護者の皆様、ご尽力いただきました評価機関の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

アスクゆめみらい保育園 園長 平尾 雅浩

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり